

2019年第三四半期鉄道分野の動向

蔣 垂東 文教大学文学部教授

1. 鉄道事業全般

1.1 2019年1～9月全国鉄道輸送統計

今年1～9月第三四半期までの鉄道輸送事業は順調に推移し、表1が示すように、鉄道の旅客輸送量は前年同期対比(以下同じ)で二桁に近い9.4%、貨物輸送量は6.1%伸びて、好調に推移している。

表1 2019年1～9月の鉄道輸送統計

項目	1～9月実績	前年同期対比	
		量	比率
旅客総輸送量(億人)	28.07	2.40	9.4%
内 国家鉄道(億人)	27.42	2.17	8.6%
旅客輸送人 ^{キョ} (億人 ^{キョ})	11,589	501.00	4.5%
貨物総輸送量(億トン)	31.54	1.81	6.1%
内 国家鉄道(億トン)	25.02	1.46	6.2%
貨物輸送 ^{トキョ} (億 ^{トキョ})	21,961	773.00	3.6%

*中国国家鉄路集团有限公司統計

今年1～9月、成都—貴陽鉄道の樂山—宜賓区間、北京—雄安都市間鉄道の北京西駅—大興空港区間など新規路線の供用開始、南寧—広州高速鉄道、南寧—昆明鉄道、蘭州—ウルムチ高速鉄道ハミ—ウルムチ区間の運行速度の引き上げなどによる供給の拡大および、主力の復興号高速列車の264編成の新規投入などサービス品質の向上があった。

旅客部門では、1～9月一日あたりの旅客列車平均運行本数は967本増えて8,538本を数え、内、高速列車の比率は71.6%に達した。高速列車に占める主力の国産復興号の比率は12%に上昇し、鉄道旅客輸送における高速鉄道の役割が日に日に重要性を増し、復興号高速列車のブランド力が一層強まったことが現れている。

今年に入ってから、中国国家鉄路総公司(国鉄)が、柔軟なダイヤ編成の採用、42路線における変動制運賃の導入などに

より高速鉄道旅客需要の大幅な増加をもたらした。1～9月の高速列車利用者数が15.3%増の17.34億人を記録、鉄道旅客総輸送量に占める割合が3.7ポイント向上して63.2%に高まった。

利便性とサービス品質の向上を図るため、Eチケットの試験運用を開始し、海南島の環状高速鉄道、上海—南京都市間鉄道、昆明—大理—麗江高速鉄道など対象各路線のペーパーレスの利用者数が延べ3,929.8万人に達した。

貨物部門では、重点地域、重点路線、重点貨物に焦点を絞って、貨物需要の掘り起こしに力を入れた。1～9月の石炭輸送量は13.24億トンに達し、3.6%伸びた。路線別では、(山西省)瓦塘—(山東省)日照線、唐山—フフホト線、陝西煤業、新疆煤業の輸送量はそれぞれ44.7%、63.8%、8.7%、36.8%拡大した。主要冶金物資の輸送量は10.6%増の6.68億トンに記録、主要港湾の鉱石運搬量は7.8%、コンテナ、商品自動車、冷凍物流の輸送量はそれぞれ31.2%、8.7%、31.7%伸びた。

出典：2019/10/21 中国国家鉄路集团有限公司 HP

http://www.china-railway.com.cn/xwzx/ywsl/201910/t20191021_96947.html

1.2 1～9月の中国—欧州国際貨物列車、運行拡大へ

中国—欧州国際貨物列車では、運行の円滑化を図るための調整会議の開催、日常の運行管理の強化、運行規模の拡大などの措置を実施した。1～8月では、行き便は、運行本数が2,845本で、輸送量が25万TEU、コンテナ詰め込み率が99%で、帰り便は、運行本数が2,421本、輸送量が21万TEU、詰め込み率が85%だった。1～9月の行き便と帰り便を合わせた輸送量は44%増の52.6万TEUに達し、運行本数は行き便に対する帰り便の比率が14ポイント増の83%に上昇、行き便のコンテナ詰め込み率は8ポイント増の99%、行き便と帰り便を合わせたコンテナ詰め込み率は93%に達し、9ポイント向上した。

中国—欧州国際貨物列車は、所用時間が海運の三分の一、

運賃が空運の五分の一という輸送時間の短さや運賃の安さで関係する各方面から好評を博している。

出典：2019/10/21 中国国家鉄路集团有限公司 HP

http://www.china-railway.com.cn/xwzx/ywsl/201910/t20191021_96947.html

出典：2019/09/11 中国国家鉄路集团有限公司 HP

http://www.china-railway.com.cn/xwzx/ywsl/201909/t20190911_96162.html

2. 北京—雄安都市間高速鉄道、部分開業へ

9月26日、北京—雄安都市間鉄道の北京西駅—大興空港区間が供用を開始した。

北京—雄安都市間鉄道は、始発駅の北京西駅から李営駅までは既存の北京—九竜鉄道を利用、李営駅より先の92.03kmの区間を新規路線として李営—大興空港、大興空港—雄安の2区間に分けて整備している。北京市大興区、河北省の廊坊、霸州市を經由して終点は首都機能を担う新都心雄安で、沿線に北京大興、大興空港、固安東、霸州北、雄安の5駅を設置する。北京西駅—大興空港区間は大興国際空港が開港する9月26日に合わせて供用を開始し、残り的大興空港—雄安区間は2020年に開通する予定である。

供用開始後、北京西駅—大興空港間では1日に12往復を主力の復興号高速列車を使って運行し、最短の所要時間は28分。同鉄道の李営—大興空港間は大興国際空港旅客ターミナルの地下に設置され、航空、地下鉄、バス、タクシーとシームレスの状態で接続している。空港鉄道、空港高速道路とともに北京市内と大興空港を結ぶ主要な移動手段となっている。Eチケットの利用ができる他、車内で2022北京冬季オリンピックのオフィシャルグッズを販売する特別サービスが導入されている。座席の取手にあるQRコードをスキャンして車内販売の飲食料品と土産品のラインナップを確認することができるなど、さまざまな工夫がしこうされている。

なお、10月25日まで開業一カ月目の同区間の利用者数は延べ34,049万人を数え、一日あたりの平均利用者数は1,174人となっている。

出典：2019/09/25 中国国家鉄路集团有限公司 HP

http://www.china-railway.com.cn/xwzx/ywsl/201909/t20190925_96455.html

2019/11/01 中国国家鉄路集团有限公司 HP

http://www.china-railway.com.cn/xwzx/zhxw/201911/t20191101_97172.html

3. 一帯一路関連

3.1 中国資本鉄道貨車組立工場、ナイジェリアで着工へ

11月9日、中国鉄建中土集団(CRCC)のナイジェリア鉄道貨車組立工場がナイジェリアで着工した。中国企業の主導によるアフリカで最大の経済規模を誇るナイジェリアの鉄道設備製造の現地化はこれによって重要な一歩を踏み出した。

ナイジェリアでは、中国鉄建が受注した首都アブジャと中北部のカドゥナ州の州都カドゥナを結ぶアブジャ=カドゥナ鉄道(区間延長186.5km)が2016年に開通したのに続き、もう一つの主要路線である同国最大の港湾都市ラゴスと同国第三の都市で、南西部オヨ州の州都であるイバタンを結ぶラゴス=イバタン鉄道も2020年上半期の開業を予定している。同国鉄道事業の近代化に合わせて、鉄道設備製造の現地化を進めるため、中国鉄建は、同国南西部オヨ州のラゴス=イバタン鉄道カジャラ駅敷地内に貨車組立工場を建設することを決め、計画では2020年11月に稼働を開始する予定である。

中国鉄建現地法人の姜義高社長によると、同貨車組立工場稼働開始後、同国で使用される貨車は、中国で製造された主要部品を現地に運搬し、同工場内で溶接、組み立て、塗装、テストなどを経て最終組み立てを行う予定。ナイジェリアにとって、鉄道関連設備製造におけるゼロからのスタートとなるだけでなく、技術者の養成などのメリットもある。中国側にとっては中国規格の鉄道設備の利用拡大、組み立て技術および関連設備の輸出拡大のメリットがある。

カジャラ貨車組立工場の年間生産能力は500台で、対象製品は、一般貨車、コンテナ台車、タンク車両などとなっている。契約では、アブジャ=カドゥナ鉄道とラゴス=イバタン鉄道で使用される貨車の内、220台が同工場で組み立てられることになっている。ナイジェリアの交通大臣の着工式での挨拶によると、同プロジェクトはナイジェリアに5,000人分の雇用をもたらすことができ、最初の製品をナイジェリア国内に出荷するが、将来的にはアフリカの他の国に輸出する予定もある。

これまでに受注した在来線の改造と新路線の整備はすでにナイジェリアの製造業の近代化および経済発展の促進に大きく寄与しているが、今後の貨車組立工場プロジェクトもナイジェリアの製造業近代化推進の一環であり、雇用面でも大きく寄与し、同社にとって海外進出の新しい試みであると中国鉄建現地法人の姜義高社長が語っている。

2019/11/12 中国国家鉄路集团有限公司 HP

http://www.china-railway.com.cn/xwzx/mtj/cctv/crt/201911/t2019112_97336.html

3.2 東南アジアとの複合一貫輸送、拡大へ

10月15日、477トンのインドネシア産石炭を詰め込んだ16個のコンテナを載せた貨物列車は雲南―ベトナム鉄道経由で雲南省に到着した。雲南―ベトナム鉄道でインドネシア発の貨物が運搬されたのは今回が初めてである。

昆明鉄道局集団は近年、100年以上の歴史をもつ雲南―ベトナム鉄道(狭軌)の利用拡大を目指すべく、国際貨物列車の運行の開拓に力を注いできた。2017年12月18日、中国側の開遠とベトナム側のハイフォンとの間で中国＝欧州貨物列車の運行を始め、ベトナム、カンボジアから中国までの複合一貫輸送ルートを確認し、スムーズな運行を実現している。

2018年12月18日、開遠―ハイフォン中国―欧州貨物列車運行開始1周年を迎え、一年間の運行本数は1,000本を超えた。2018年10月8日、南アフリカからの鉄鉱石は雲南―ベトナム鉄道経由で中国に運搬され、輸送範囲がアフリカにまで拡大した。現在、昆明鉄道局集団は雲南―ベトナム鉄道で1日2本国際貨物コンテナ列車の運行を実施している一方、絶えず輸送時間の短縮と輸送効率の向上に取り組んでいる。

2019/10/23 中国国家鉄路集团有限公司 HP

http://www.china-railway.com.cn/xwzx/ywsl/201910/t20191023_97002.html